



あかね文庫お話しの会 おひさまだより



絵本アンケート

☀ (事務系 E・Cさん)

“私の好きな絵本”

私が子どもの頃の記憶にある絵本は

『ねずみくんのチョコッキ』(なかえよしを 作・上野紀子絵・ポプラ社)や『おばけのバーバパパ』(タラス・ティラー作・やましたはるお訳・偕成社)です。次の展開がわかっても繰り返し読みたくなる本でした。

絵本は読んでもらうより自分で読むことが多かった気がします。毎日通学路の途中にある図書館で借りていたので、本はたくさん読んでいました。

自分の子どもにも絵本が好きになってほしくて読み聞かせていました。中でも子どもも私も好きな絵本は『ラチとらいおん』です。弱虫だったラチがつよくなるというお話です。読んでいて楽しくなるので、繰り返し読んでいたら本がボロボロになってしまいました。

ラチとらいおん



マレーク・ペロニカ ぶん・え / とくながやすもと やく

えほんの紹介

「ラチとらいおん」

マレーク・ペロニカ

ぶん・え

とくながやすとも やく

福音館書店

世界でいちばん弱虫な男の子ラチは、犬を見れば逃げ出すし、暗い部屋も怖くて入れません。友だちも遊んでくれません。そんなラチのところへ小さな赤いらいおんがやってきました。ラチを強くするために。らいおんの特訓のおかげで、ラチはどんどん心も体も強くなり、ついにはいじめっこをやっつけることができました。でもその時にはポケットの中のらいおんはいなくなっていました。「もうぼくがいなくてもだいじょうぶだよ...」という置手紙を残して。

子どもは何か困難をのりこえるには、誰か信頼できる人の手助けが必要です。「大丈夫、あなたもいつか強くなれるよ」というメッセージが子どもにも素直に伝わってきます。淡彩による絵はとても親しみやすく印象に残り、長く読み継がれてきた絵本です。

大きなおともだち

“たのしい語らい”

ある日のプレイルーム。

高校生のK君がやってきて、おもちゃで遊んでいるHちゃんに親しく声をかけ、一緒に遊びはじめました。K君とHちゃんはまるで兄弟のように仲よく遊んでいます。そのうちHちゃんが部屋に戻ると、高校生のAさんがやってきました。二人でトランプをするというので私も入れてもらい、三人でババぬきやしんけいすいじゃくをして遊びましたが、若い二人にはかないません。それから二人は学校のことや治療で味覚がかわったこと、自宅で食べるご飯の美味しいことなどを話してくれました。そしてそれぞれのスマホを出して操作しながら、高校生同士たのしそうに話をしていました。